



一般社団法人 日本建設機械施工協会 東北支部 支部たより

# とらほく

Winter 2026

Vol.190



## 部会報告

除雪講習会開催報告

建設機械施工管理技術検定試験について

ゆきみらい2026 in 大館

除雪機械展示・実演会の開催案内

EE東北'26開催について

情報化施工技術委員会の取り組み紹介(VOL.3)

防災訓練(情報伝達訓練)

川内沢ダム本体工事について

## 国土交通省コーナー

雄物川上流「山田堰」の新設工事について

東北地方整備局 優良工事・業務等施工者等表彰

## 安全コーナー

重機の死角について

# 目 次

巻頭言 新年のご挨拶	支部長 高橋 弘	1
令和7年度 除雪講習会開催報告	施工部会	3
建設機械施工管理技術検定試験について		5
ゆきみらい2026 in 大館 除雪機械展示・実演会の開催案内		6
EE東北'26開催について		6
情報化施工技術委員会の取り組み紹介 (VOL.3)	情報化施工技術委員会 事務局 阿曾 貢貴	7
技術部会から 令和7年度防災訓練 (情報伝達訓練) を実施しました	技術部会 副部会長 狩野 武志	8
特殊工事現場研修会報告 川内沢ダム本体工事について	建設部会 徳永 寿教	10
国土交通省コーナー(1) 雄物川上流「山田堰」の新設工事について	東北地方整備局 湯沢河川国道事務所 防災課	12
国土交通省コーナー(2) 令和7年度 東北地方整備局 優良工事・業務等施工者等表彰		16
安全コーナー 重機の死角について	建設部会 副部会長 益子 優輝	18
支部行事・会員情報		20

## 【表紙写真】

### 「川内沢ダム」

所在地：宮城県名取市愛島笠島地内  
発注者：宮城県  
工期：2022年10月20日～2027年3月31日  
施工者：西松・奥田・グリーン企画  
特定建設工事共同企業体

形式：重力式コンクリートダム  
堤高・堤頂長：36.7m・140m  
堤体積：51,000m<sup>3</sup>  
目的：洪水調節、かんがい

※堤体が茶色く見えるのは散水養生水のためです。

# 新年のご挨拶



東北支部 支部長 高橋 弘  
(東北大学大学院 環境科学研究科 特任教授)

明けましておめでとうございます。旧年中は会員の皆様には大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。本年も宜しく願い申し上げます。

2025年は、これまでにない異常気象に翻弄された一年となりました。記録的な猛暑と長く続いた夏は、建設現場の安全管理や作業労働者の健康管理に大きな影響を与えることになりました。一方で、北日本では11月としては、これまでに経験したことのない降雪量を記録するなど、気候変動が私たちの生活環境に確実に影を落としていることを改めて実感させることになりました。またクマ被害に関するニュースが連日報道されましたが、この一因も気候変動の影響と言っても過言ではないと思います。昨年は福島県を除く東北5県でブナが大凶作であることがクマ出没の原因と報道されていますが、ブナの大凶作だけが原因ではないように感じています。また、これまで日本には四季があると言われてきましたが、昨年はニュース等で二季という言葉が使われるようになり愕然としたことを覚えています。筆者はこれまでにインドネシアやベトナムの留学生を多く受け入れてきました。彼らに、「How many seasons do you have in your country? (あなたの国ではいくつの季節がありますか?)」と尋ねると、多くの学生が、「Two seasons! Hot and very hot! (暑い季節と非常に暑い季節の2つです!)」と答える学生が多くいました。地球温暖化が進んでいるとはいえ、日本がこのような状態になることはないと思いますが、それでも日本の四季が二季になってしまうのには寂しさを感じます。日本には昔から、四季折々の季節や自然の魅力を表す美しい日本語が数多く存在するように、四季は日本の文化であると感じております。地球温暖化防止の重要性を改めて認識した一年でした。

このような環境下で、建設業界に求められているのは、急激に変化する条件へ柔軟に適応し、持続可能な施工体制を築く力です。その一つの鍵として期待されているのが、国土交通省が推進するi-Construction 2.0の取り組みです。デジタル化・自動化技術のさらなる高度化により、施工の効率化、作業の平準化、安全性向上が一層促進されることが期待されています。東北地域においても、厳しい自然条件を踏まえたICT施工技術の活用は、今後ますます重要性を増していくと思われま

す。一方で、現場を支える「人」の不足という課題は依然として深刻です。若年層の建設業離れや労働人口の減少により、人材不足は構造的な問題となっています。しかしながら、人材こそが建設産業の根幹であることに変わりはありません。人材確保に向けた魅力発信や働きやすい環境づくり、若い人材に対する研修体制の充実など、総合的な取り組みをさらに推進していく必要があります。DX技術の導入と人材育成を高い次元で両立させることこそ、東北地域の建設産業が将来にわたり持続的に発展するための基盤となると確信しております。

昨年の11月末に開催された本部主催のシンポジウムでは、「除雪機械・除雪技術の現状と課題－地域の安全と物流を守る



写真1 シンポジウムにて

ために」と題するパネルディスカッションが行われ、除雪機械の現状と課題について議論が行われました。ICT除雪機や自動化に対する期待の大きさが再確認されましたが、その背景にあるのは、「現

場を支える「人」の不足」です。除雪機械のオペレータ確保に向けて様々な取り組みが行われていますが、人口減少が叫ばれている中、どんなに努力しても現在と同じ労働力を今後とも安定して確保することは極めて困難です。そのためにもICT除雪機などを用いて生産性を向上し、現在よりも少ない労働力で除雪のサービスレベルを維持して行かなければならないと感じています。

ところで、私事で恐縮ですが、筆者が参画しているムーンショットプロジェクト目標3「多様な環境に適応しインフラ構築を革新する協働AIロボット」が本年3月末で終了します。昨年7月には、九州大学に造成された模擬河道計測現場で成果発表の最終デモが実施され、筆者のグループも参加、デモを実施しました。筆者らのグループでは、加速度センサ内蔵の球体をドローン



写真2 成果発表最終デモの様子  
@九州大学 (2025年7月)

から被災現場の地盤表面に投下し、球体が地面と衝突する際の衝撃加速度から地盤強度を推定する手法を開発いたしました。写真2はデモにおいて、ドローンから球体を投下している様子を示しています。

また、国土交通省東北地方整備局新庄河川事務所にご協力いただき、2024年7月の豪雨で地滑りが発生した庄内町板敷地区において、本手法の現場適用性を検証する試験を実施させて頂きました。本手法を用いると、地滑り現場に直接作業員が立ち入ることなく、安全に地盤強度を推定することができるメリットがあります。かつ作業員が現場までアクセスするにはかなりの長時間を要しますが、ドローンを使用するので、極めて短時間で計測を終了することができます。今後は、社会実装を目指した取り組みを行っていきたいと考えているところです。なお、本プロジェクトの成果を紹介する小冊子1部を支部事務局に寄贈しましたので、事務局を訪れた際には手に取って見て頂けると幸いです。

最後になりましたが、本支部では、会員の皆様のご協力を得ながら、今年度の事業を進めて参りたいと考えております。会員各位のご協力をお願い申し上げます。



人生初のイカ釣り  
(津軽海峡、2025年8月4日)



青森のねぶた (筆者撮影)

# 令和7年度 除雪講習会開催報告

## 施工部会

東北支部では例年に引き続き令和7年度も除雪講習会を開催しました。

本除雪講習会は、国土交通省東北地方整備局をはじめ、諸官庁のご指導により道路除雪作業の安全確保・円滑な除雪作業を遂行するための講習会として、道路除雪作業従事者を対象に、除雪工法・除雪作業の安全対策・除雪機械の取り扱い等について習得していただき、除雪作業の効率化と除雪作業の安全対策に寄与するとともに、冬期道路の円滑な確保の遂行に資するものです。

受講対象者の詳細は国、県、市町村等が管理する道路の除雪作業に従事する管理者、除雪作業請負業者のオペレータ・現場代理人・施工管理者、除雪機械整備工場等の整備員です。

講習会プログラムは次のとおりです

講習内容	講習時間	講師等
あいさつ	10:00~10:05	東北支部 事務局
国の除雪の取組について	10:05~10:25	国土交通省 講師
県の除雪の取組について	10:25~10:45	各県 講師
施工方法と作業のポイント	10:45~12:00	東北支部 講師
(休憩)		
除雪作業の安全対策 (事故とヒヤリハットの事例)	13:00~13:50	東北支部 講師
(休憩)		
冬の交通安全	14:00~14:40	警察 講師
除雪機械の取り扱い (共通編及び各機械編)	14:40~15:55	東北支部 講師
閉会及び受講証交付	15:55~16:10	東北支部 事務局

今年度は申込み者数が3,414名、実受講者総数は3,312名となりました。昨年度に比べ受講者数は減となりましたが、東北地方整備局が5年間隔での義

務づけている、前回の令和2年の講習会からは500名以上の増となっています。講習会場数は19会場を確保し、各会場で講習を実施しました。

今年度の講習では新たに、国土交通省の主導で開発が進められている、除雪機械の作業装置自動化技術の紹介を盛り込んでいます。

### ■除雪講習会

#### ①青森(1)会場

月 日 令和7年9月17日(水)  
場 所 青森市 青森産業会館  
受 講 者 165名

#### ②青森(2)会場

月 日 令和7年9月18日(木)  
場 所 青森市 青森産業会館  
受 講 者 166名

#### ③弘前会場

月 日 令和7年9月19日(金)  
場 所 弘前市 弘前文化センター  
受 講 者 139名

#### ④会津(1)会場

月 日 令和7年9月25日(木)  
場 所 福島県会津若松市 会津アピオ  
受 講 者 177名

#### ⑤会津(2)会場

月 日 令和7年9月26日(金)  
場 所 福島県会津若松市 会津アピオ  
受 講 者 176名

#### ⑥横手(1)会場

月 日 令和7年9月30日(火)  
場 所 秋田県横手市 秋田ふるさと村  
受 講 者 220名

#### ⑦横手(2)会場

月 日 令和7年10月1日(水)  
場 所 秋田県横手市 秋田ふるさと村  
受 講 者 213名

#### ⑧秋田会場

月 日 令和7年10月2日(木)  
場 所 秋田県秋田市 秋田テルサ  
受 講 者 106名

⑨山形(1)会場

月 日 令和7年10月7日(火)  
場 所 山形県山形市 山形ビッグウイング  
受 講 者 191名

⑩山形(2)会場

月 日 令和7年10月8日(水)  
場 所 山形県山形市 山形ビッグウイング  
受 講 者 184名

⑪新庄(1)会場

月 日 令和7年10月9日(木)  
場 所 山形県新庄市 新庄市民文化会館  
受 講 者 91名

⑫新庄(2)会場

月 日 令和7年10月10日(金)  
場 所 山形県新庄市 新庄市民文化会館  
受 講 者 90名

⑬岩手(1)会場

月 日 令和7年10月14日(火)  
場 所 岩手県滝沢市  
岩手産業文化センター  
受 講 者 362名

⑭岩手(2)会場

月 日 令和7年10月15日(水)  
場 所 岩手県滝沢市  
岩手産業文化センター  
受 講 者 363名

⑮宮古会場

月 日 令和7年10月17日(金)  
場 所 岩手県宮古市 陸中ビル  
受 講 者 165名

⑯奥州(1)会場

月 日 令和7年10月23日(木)  
場 所 奥州市 奥州市文化会館  
受 講 者 120名

⑰奥州(2)会場

月 日 令和7年10月24日(金)  
場 所 奥州市 奥州市文化会館  
受 講 者 122名

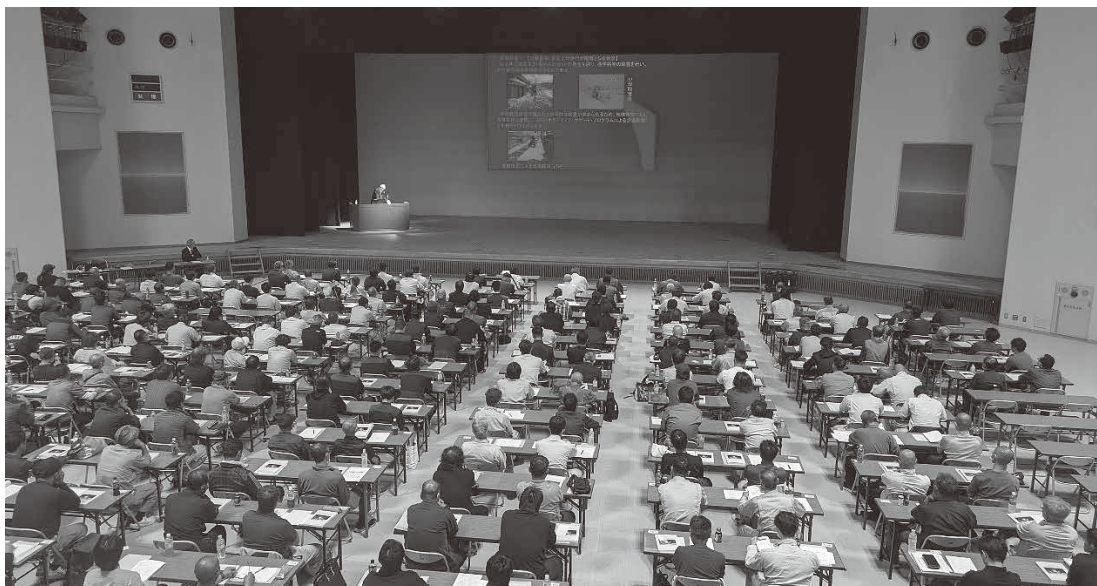
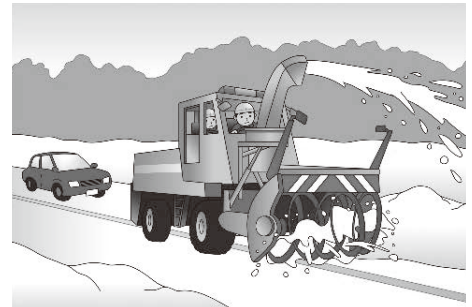
⑱仙台(1)会場

月 日 令和7年11月5日(水)  
場 所 仙台市 フォレスト仙台  
受 講 者 133名

⑲仙台(2)会場

月 日 令和7年11月6日(木)  
場 所 仙台市 フォレスト仙台  
受 講 者 129名

除雪講習会の開催にあたり、ご指導とご協力を賜りました東北地方整備局、東北各県の県庁および県警本部、警察署の皆様には感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。



講習会受講風景 (横手(1)会場)

# 建設機械施工管理技術検定試験について

## — 令和7年度実施状況について —

令和7年度建設機械施工技術検定の学科試験は、令和7年6月15日(日)に、1級は仙台市の東北学院大学、2級は岩手県滝沢市の岩手産業文化センター(アピオ)を会場に実施しました。

受検者数は1級第一次検定280名、第二次検定(筆記)80名、2級第一次検定の共通476名、第1種49名、第2種398名、第3種15名、第4種53名、第5種6名、第6種4名、2級第二次検定が288名でした。

二次実技試験は令和7年度分1級・2級を令和7年8月22日(水)～8月26日(火)に、宮城県仙台市の西尾レントオール(株)東北テクノヤードを会場として実施しました。受検者数は1級が107名、2級が425名でした。



学科試験会場風景(1)



学科試験会場風景(2)



実技試験会場風景

## — 令和8年度実施状況について —

令和8年度建設機械施工技術検定は、1級・2級の一次検定・二次検定学科試験が令和8年6月21日(日)に実施されます。

令和8年度から、1級2級ともに**第一次検定及び第二次検定(再受験者)の受験申込みが、インターネット申請**になります。

なお、第二次検定の新規受験申請は従来通り書類申請です。また、インターネット申請が困難な第二次検定の再受験者も書類申請できます。

**第一次検定はインターネット申請のみです。**

詳細については、当協会のHPをご確認ください。

書類申請される方は、検定試験申込書類等の「受験の手引」について、次の日程で窓口販売及び郵送販売します。なお、インターネット申請の際は「受験の手引き」の購入は不要です。

### 〈販売等日程〉

○窓口販売：令和8年2月2日(月)

～3月13日(金)

(一社) 日本建設機械施工協会

(試験部及び東北支部)

※上記の窓口で販売します。

○郵送販売：令和8年2月2日(月)

～3月2日(月)必着

※東北支部でのみ郵送販売します

○受験申込期間(1級および2級)

一次検定・二次検定

：令和8年2月16日(月)

～3月13日(金)

(最終日の消印のあるものまで有効です)

### 〈販売価格等〉

○販売価格：1級・2級共に1部

1,000円(税込み、送料別途負担)

# ゆきみらい2026 in 大館 除雪機械展示・実演会の開催案内



除雪機械の最先端の技術を披露し、機械の技術革新や除雪事業の仕組みを理解していただくと共に除雪機械の展示・実演と除雪技術を紹介します。

冬期の道路交通を確保し、雪国の生活を支える除雪機械をもっと理解していただくために開催します。

●開催日

令和8年1月29日(木) 10:00~15:30  
1月30日(金) 10:00~15:00

●会場

秋田県大館市  
ニプロハチ公ドーム  
(大館樹海ドーム) 駐車場



過去の開催状況

## EE東北'26開催について

(1)開催概要

■名称

建設技術公開「EE東北'26」  
(イーイー トウホク ニーロク)

※EEとは、英語のEngineering Exhibition (エンジニアリング・エキジビション) の略で、新技術を広く公開するという意味

■キャッチコピー

広げよう新技術つなげよう未来へ

■開催回数

35回目(平成2年スタート、平成23年、令和2年開催中止)

■開催目的

建設事業に係わる新材料・新工法・その他時代のニーズに対応して開発された新技術を公開し、その普及をはかることにより、技術開発を促進するとともに、良質な社会資本の整備を通じて地域の発展に寄与することを目的とする

■開催日時

令和8年6月3日(水) 10:00~16:30  
令和8年6月4日(木) 9:30~16:00

■会場

夢メッセみやぎ(仙台市宮城野区港3丁目1-7)

■技術分野

技術分野は「設計・施工」、「維持管理・予防保全」、「防災・安全」、「その他分野」の4分野

(2)実施内容

- ①開会式 本館展示棟コンコース  
6月3日(水) 10:00~10:20
- ②基調講演 本館会議棟大ホール  
6月3日(水) 10:30~11:30
- ③新技術展示会 本館展示棟、西館展示場(屋内展示)  
6月3日(水) 10:00~16:30  
6月4日(木) 9:30~16:00

- ④新技術展示会 屋外展示場(屋外展示)  
6月3日(水) 10:00~16:30  
6月4日(木) 9:30~16:00
- ⑤新技術プレゼンテーション 本館会議棟A、Bホール  
6月3日(水) 13:00~16:15  
6月4日(木) 10:30~15:00
- ⑥特設コーナー 本館展示棟コンコース  
・学生&企業交流広場  
・高校生「橋梁模型」作品発表会入賞作品展示  
・技術パネル(ICT)展示
- ⑦WEB配信  
・開催案内及び出展技術の電子ガイドブック掲載  
・各コンテンツのアーカイブ配信
- ⑧特別企画展示 西館ホール  
6月3日(水) 10:00~16:30  
6月4日(木) 9:30~16:00
- ⑨スタンプラリーの実施



EE東北'25開催状況

# 情報化施工技術委員会の取り組み紹介 VOL.3

情報化施工技術委員会 事務局 阿曾 貢貴  
(支部参与)

## 前号までのあらまし

2008年にスタートした「情報化施工推進戦略」、2013年の「新たな情報化施工推進戦略」の施策を背景に、2014年2月17日に「情報化施工技術委員会」(委員会と記す)が設立された。

本号では、委員会の取組がもたらした支部会員数増加の実態と委員会設立以降12年間に亘り開催されてきた通称「6県セミナー」の変遷とその概要について紹介する。

## 支部会員数増加への貢献

### ①委員会への入会希望者が支部に入会

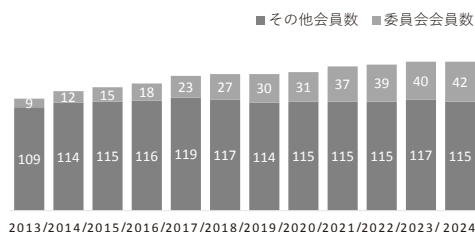


図1 支部会員数の推移 (会員数は年度末)

- 委員会設立時のメンバーは15社(支部会員ではない企業も含む)であった会員は、2024年度末には42社(全て支部会員)まで増えている。
- 当初は支部会員であることを委員会入会の条件にはしなかったが、支部事業としての活動であること、支部として知り得る情報を共有するメリットを享受できることを勧奨し、支部入会を義務づけた。
- 結果、委員会設立時の126社の支部会員数は2024年度には157社と大きく増えている。委員会の地道な取組がもたらした大きな貢献である。

## 6県セミナーの変遷

### ①施策と共にセミナーも変化

- 2014年度は、「情報化施工推進戦略」が目指す、「ICT(情報通信技術)を活用した新たな施工=情報化施工」に寄せて「情報化施工技術セミナー」と称した。
- 2016年度には、新たな施策「i-Construction」のキーワード「ICTの全面的な活用(ICT施工)」に寄せて「i-Construction(ICT)セミナー」と改称した。
- 翌2017年度には、ICT施工を実践した工事の名称となる「ICT活用工事」を取り入れ、

「i-Construction(ICT活用工事)セミナー」と改称した。

- 2024年度には、2022年度スタートの施策「インフラ分野のデジタル・トランスフォーメーション」で活用される技術をカリキュラムに取り入れ、名称を「i-Construction・インフラDXセミナー」と改称した。
- 2025年度には、国交省直轄のICT土工、ICT河川浚渫工が標準化される情勢に合わせて、基本に立ち返ってICT導入を促すことを目的とし「建設ICT基礎セミナー」とした。

表16 県セミナーの名称と受講者数の変遷

開催年度	セミナー名称	受講者数	主催・共催
2014	「情報化施工セミナー」	246名	JCMA主催(単独)
2015	「情報化施工セミナー」	266名	3者共催(JCMA、国交省東北建設業協会連合会)
2016	「i-Construction(ICT)セミナー」	696名	4者共催(JCMA、国交省、各県東北建設業協会連合会)
2017	「i-Construction(ICT活用工事)セミナー」	551名	同上
2018	「i-Construction(ICT活用工事)セミナー」	527名	同上
2019	「i-Construction(ICT活用工事)セミナー」	359名	同上
2020	「i-Construction(ICT活用工事)セミナー」	277名	同上
2021	「i-Construction(ICT活用工事)セミナー」	243名	同上
2022	「i-Construction(ICT活用工事)セミナー」	252名	同上
2023	「i-Construction(ICT活用工事)セミナー」	286名	同上
2024	「i-Construction・インフラDXセミナー」	266名	同上
2025	「建設ICT基礎セミナー」	250名	同上
受講者累計		4,219名	

### ②受講者数の変遷

- 「i-Construction」の施策が発表された2016年には「ICT施工」が未だ浸透しておらず、建設業社の他に設計コンサルタント業者も数多く受講していた。
- この時期には、各団体(支援業務、OB会等)からの出前講座の依頼も数多くあったが、ある程度の浸透とコロナの影響により低減していった。

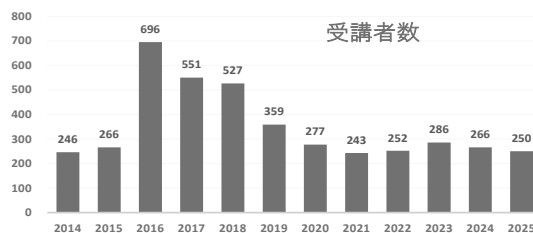


図2 受講者数の変遷

## 次号予告

6県セミナーの詳細と各団体からの講師派遣依頼について

# 令和7年度防災訓練(情報伝達訓練)を実施しました

技術部会 副部会長 狩野 武志  
(佐藤鉄工株式会社 仙台営業所)

## 1. はじめに

9月1日は「防災の日」です。昭和35年に「防災の日」として制定されてから、全国各地で防災訓練が行われる日でもあります。

東北地方整備局では、毎年防災週間（8/30～9/5）に災害発生時における、被災情報の迅速な情報収集・伝達及び情報共有に加え、災害対応の応援協定を締結している、各種団体との連携の確認や広域的な災害対応の能力向上を図ることを目的として「総合防災訓練」が実施されています。

このため、東北地方整備局は、総合防災訓練を実施する際には、災害協定締結団体に対して、総合防災訓練への協力依頼を行っています。

J CMA東北支部は、東北地方整備局と「災害時における東北地方整備局所管施設（機械設備及び災害対策用機械）の災害応急対策業務に関する協定」を、平成24年6月1日に締結しています。

令和7年度も7月17日付で東北地方整備局統括防災官から9月1日の総合防災訓練に対する協力依頼があり、当支部は重点事務所（秋田、能代）と情報伝達訓練を行うべく準備に取りかかりました。

しかしながら、8月の前線に伴う大雨により秋田県内の米代川他での災害対応により、昨年度に続き10月に延期となりました。

## 2. 訓練の概要

防災訓練は、令和7年10月3日（金）9時20分に「秋田県沖で最大震度6強の地震が発生し、秋田市（新屋町）13.5m、由利本荘市（松ヶ崎）11.3m、潟上市（天王）11.6m、三種町（釜屋）12.4m、三種町（落合）11.6mの津波が発生した。」との想定

で実施となりました。

今回の訓練では、秋田河川国道事務所で河川被害、能代河川国道事務所では道路被害を想定することでした。

そこで両事務所の機械担当職員と打合せを行い、下記設備が被災したとの想定で、当該機械設備の施工会社2社の協力で、情報伝達訓練を実施することとしました。

表－1 訓練対象の機械設備と会員会社

応援要請事務所	応援対象設備等	応援要請会社
秋田河川国道	安養寺川排水樋門 (雄物川)	西田鉄工(株) 仙台支店
能代河川国道	大茂内第二トンネル 換気設備 (J F)	(株)電業社機械 製作所 東北支店

情報伝達訓練は以下の1)～5)の内容とし、伝達手段としてFAXを使用することとしました。

- 1) 応援要請事務所から当支部への応援要請
- 2) 当支部から会員会社への応援要請
- 3) 会員会社から当支部への応援対応報告
- 4) 会員会社から当支部への調査結果報告
- 5) 当支部から応援要請事務所への調査結果報告

## 3. 訓練当日の状況

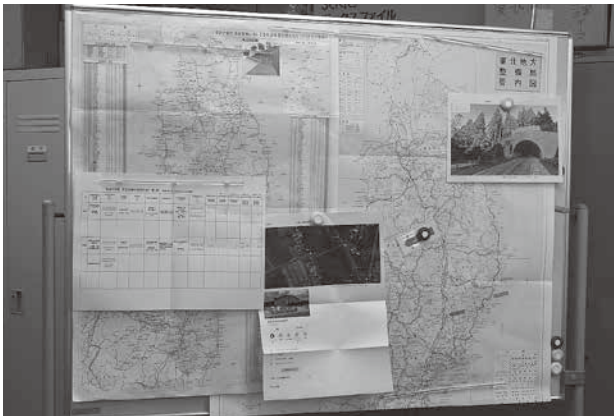
当支部では、想定地震が発生した後、各事務所からの応援要請を受け、支部会議室に「日本建設機械施工協会東北支部総合防災対策（訓練）本部」を設置し訓練を開始しました。東北支部の訓練参加者は、福田智之技術部会長ほか4名及び事務局2名です。



写真一 防災訓練（情報伝達訓練）の様子



写真二 防災訓練（情報伝達訓練）の様子



写真三 情報伝達訓練の様子（掲示板他）

#### 4. 実施結果と反省点

今回の訓練は、「情報伝達訓練」であり、訓練時間も限られた中での実施でした。

このため、応援要請を受けた会員会社が、実際に被災想定現場に行くことはありませんが、災害時の応援対応を想定した情報伝達訓練を行う様、打合わせを行い、応援要請を受けた会員各社からは、実際の災害対応を想定した派遣人員・人数についての報告がありました。

また、調査報告様式の伝達も迅速に行われるなど、「実際の災害対応もこのように形が望ましい」という状況で訓練を進めることができました。

改善点としては、最終報告時の確認様式の変更（FAX番号の追加）及び最終連絡（事務所）確認の徹底を行う等の意見がありました。

#### 5. 最後に

当支部が行う情報伝達訓練は、本年度で19回目（平成28年・令和4年は中止）となり、会員各社の迅速な対応により、無事に終了する事ができました。

今回の訓練にご協力いただいた、東北地方整備局秋田河川国道事務所、能代河川国道事務所並びに会員各社の皆様に対し、御礼申し上げます。



# 川内沢ダム本体工事について

建設部会 徳永 寿教  
(前田建設工業株式会社)

## 1. はじめに

当協会東北支部建設部会では、先進的な建設技術を学習するため、11月26日、27日の2日間で以下の工事現場の視察を行った。

- ・発注者：国土交通省 東北地方整備局  
工事名：国道121号湯野上2号トンネル工事  
請負者：(株)竹中土木
  - ・発注者：国土交通省 東北地方整備局  
工事名：国道121号水門橋上部工工事  
請負者：(株)フジタ東北支店
  - ・発注者：国土交通省 東北地方整備局  
工事名：国道13号福島西道路（Ⅱ期）  
（仮称）浅川トンネル工事  
請負者：(株)福田組
  - ・発注者：宮城県  
工事名：川内沢ダム本体工事  
請負者：西松・奥田・グリーン企画特定建設工事共同企業体
- その中で、打設を視察させていただいた川内沢ダム本体工事の報告を行う。

## 2. 川内沢ダム本体工事 研修会報告

### (1)工事概要

工事名：川内沢ダム本体工事  
工事場所：宮城県名取市愛島笠島地内  
発注者：宮城県  
請負者：西松・奥田・グリーン企画特定建設工事共同企業体  
工期：令和4年10月20日  
～令和9年3月31日

### (2)主要工事内容：

形式：重力式コンクリートダム  
堤高：36.7m

堤頂長：140m

堤体積：51,000m<sup>3</sup>

本体掘削工：土石・岩石掘削、建設発生土処理、岩盤面処理工

転流工：一次転流工、二次転流工、三次転流工、上流・下流仮締切り一式

基礎処理工：コンソリデーショングラウチング一式、カーテングラウチング一式

仮設備：コンクリート製造設備、骨材貯蔵・輸送設備（購入骨材）、濁水処理設備他一式

### (3)研修会概要

建設部会特殊工事現場研修会2日目、福島市浅川町の国道13号浅川トンネル工事を視察後、名取方面へ向かって1時間半移動し、西松・奥田・グリーン企画特定建設工事共同企業体の事務所に到着した。事務所では、西松建設(株)の小野所長より、工事概要のほか、定点観察動画によるバッチャープラント・骨材貯蔵輸送設備の組立状況、左右岸・河床部の本体基礎掘削状況、堤体工・減勢工のコンクリート打設状況等の説明を受けた。その後、現場に移動し仮設備、打設状況を見学した。



写真-1 工事概要の説明

仮設備は、2軸強制練りミキサーを装備した3.0m<sup>3</sup>バッチャープラント（製造能力110m<sup>3</sup>/h）、骨材貯蔵・輸送設備、冷暖房設備等の説明を受けた。バツ

チャープラントは、骨材冷却のための冷風用鋼管や練り水用に加熱冷却装置が取り付けられるなど、品質や生産性の向上のための工夫が感じられた。



写真-2 バッチャープラント

打設は350tのクローラクレーンを使用し、生コンクリートを投入した4.5m<sup>3</sup>の水平バケットを吊り上げ、所定の場所にて開閉し打設すると説明を受けた。水平バケットの開閉は、リモコンスイッチを使用して遠隔操作にて行っていた。



写真-3 4.5m<sup>3</sup>水平バケットによる打設状況

設備の特色として、生コンクリートの品質を管理するため以下の対策を行っていた。

夏季対策として

1. 骨材貯蔵設備にスプリンクラーを設置。
2. セメントサイロに断熱塗装を実施。
3. バッチャープラントに冷風設備を設置。
4. 夜間打設を実施。

冬季対策として

1. バッチャープラントにボイラーを設置。
2. 日中打設を実施。

川の流れを切り替える転流が3回あり、切り替え

るための作業の苦勞を感じた。

令和6年7月11日に打設が始まってから、打設量は残り500m<sup>3</sup>となった。進捗率も99%に到達し来年度で工事が完成する。試験湛水は、令和8年7月頃からの開始予定と説明を受けた。



写真-4 川内沢川の切り替え水路

(4)おわりに

今回、川内沢ダム本体工事を見学させていただき、重力式コンクリートダムの構造や水平バケットによる打設方法、完成までの一連の流れが深く理解できて大変有意義なものとなった。説明及び案内していただいた西松JVの皆様がこの場を借りて深く御礼申し上げます。



写真-5 集合写真

また、今回、報告できませんでした国道121号湯野上2号トンネル工事、国道121号水門橋上部工工事、国道13号福島西道路(Ⅱ期)(仮称)浅川トンネル工事の皆様方、工事概要や現場説明のほか、現場の苦勞話や湧水対策、騒音・振動対策、地元住民対策等の説明を詳細にいただき、今後の施工にあたって大変参考になりました。この場を借りて関係皆様方に深く御礼申し上げます。

# 雄物川上流「山田堰」の新設工事について

東北地方整備局 湯沢河川国道事務所 防災課

## 1. はじめに

雄物川上流の山田頭首工は、湯沢・雄勝地方の穀倉地帯を支える農業用取水施設として昭和27年に築造され、昭和45年の改築を経て現在の頭首工形状の施設になっています。(写真-1)



写真-1 山田頭首工全景(改築前)

当施設は、固定堰のため洪水時において流水障害が生じていたことから、可動堰へ改築することで流下能力の改善を図る改築事業(山田堰)に着手し、令和6年8月から本体工事に着手しています。

この改築事業では、経済性等から、ゲート設備はSR合成起伏堰を採用しています。

また、治水安全度向上に加え、回遊性魚類の遡上環境等の連続性確保のため、兩岸に魚道を整備し良好な河川環境の保全に努めています。

## 2. SR合成起伏堰の特徴

一般的なゲート形式は、鋼製起伏式ゲート(油圧シリンダ式)ですが、本改築工事においては、ゲートのユニット化、堰柱の小型化、ゲート軽量化等の検討結果から、SR合成起伏堰を採用しています。

SR合成起伏堰は、鋼製の扉体とゴム引布製空気袋(以下:空気袋)の組合せによるユニット構造で、堰柱を設けず堰幅拡張が可能な起伏ゲート設備の一種になります。(図-1、表-1)

構造上、扉体が流木等の直撃から空気袋を保護するため損傷しにくく、また、圧力媒体が空気のため、環境汚染の心配もありません。

また、ゴム引布製起伏堰と比較して振動やVノッチ現象が無く、ゲート倒伏動作が安定しています。

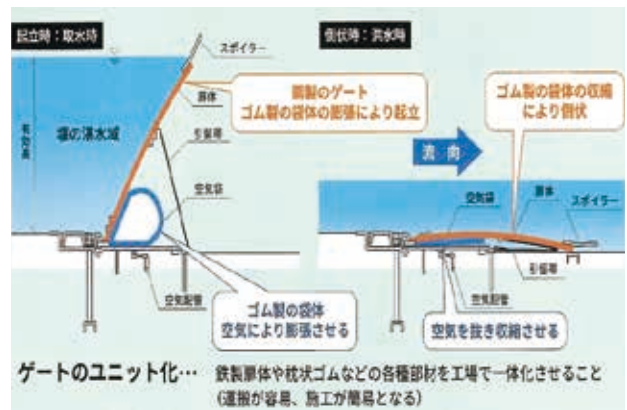


図-1 SR合成起伏堰の構造図

表-1 既存設備と新設設備の比較

項目	既設設備	新設設備
堰位置	雄物川距離標:107.0k	雄物川距離標:107.0k
堰形式・規模	固定堰 (幅270m×高さ2.57m)	可動堰 (幅164.8m×高さ2.57m)
ゲート施設	洪水吐:鋼製転倒ゲート 幅20m×高さ2.4m×2門	SR合成起伏ゲート (幅40m×4門)
	土砂吐:鋼製フラップゲート 幅10m×高さ2.9m×1門	

### 3. 山田堰の諸元

山田堰のゲートは、門数4門、1門当たりの純径間40.0m、扉高2.57mであり、湯沢河川国道事務所管内のSR合成起伏堰（既設設備：大久保堰、湯沢統合堰）と比較して最も規模の大きな堰となります。（表-2）

### 4. 山田堰の工事工程

現在施工しているゲート設備工事では、ゲート設備及び管理棟内に設置する機械設備（ゲート機側操作盤、コンプレッサー、空気タンク、水位計、空気

制御盤、空気配管等）の製作・据付を行います。

据付工程は、土木工事の施工にあわせ、ゲート設備を2年（2門/年）、管理棟内の機械設備を1年の計3年で計画しています。（図-2）

令和6年度は、右岸側2門のゲート設備及び左岸側に新設の管理棟ができるまでの2年間だけ使用する暫定操作室据付を行い、令和7年度は、残る2門のゲート設備について据付を行います。

令和8年度は、操作室内機械設備、空気配管、ゲート傾斜計（開度計）等の据付後、総合試運転・調整を行いゲート設備完成となります。

表-2 湯沢河川国道事務所管内のSR合成起伏ゲート諸元比較

項目	大久保堰 (H18年度完成)	湯沢統合堰 (H22年度完成)	山田堰 (R8年度完成予定)
ゲート形式	鋼製起伏堰 (ゴム袋体支持式)	鋼製起伏堰 (ゴム袋体支持式)	鋼製起伏堰 (ゴム袋体支持式)
門数	4門	4門	4門
純径間	31.6 m/門	28.8 m/門	40.0 m/門
扉高	1.45 m	3.00 m	2.57 m
面積	45.82 m <sup>2</sup> /門	86.4 m <sup>2</sup> /門	102.8 m <sup>2</sup> /門
水密方式	前面3方ゴム水密	前面3方ゴム水密	前面3方ゴム水密
開閉方式	圧縮空気圧入・自然排出式	圧縮空気圧入・自然排出式	圧縮空気圧入・自然排出式
主要部材	扉体 SUS304, t=9mm	扉体 SUS304, t=12mm	扉体 SUS304, t=12mm
	戸当り SUS304	戸当り SUS304	戸当り SUS304
開閉装置	エンジン式圧縮機 (スクリー式36.6kW:1台)	エンジン式圧縮機 (スクリー式80.9kW:1台)	エンジン式圧縮機 (スクリー式118.6kW:1台)
	電動式圧縮機 (レシプロ式5.5kW:1台)	電動式圧縮機 (レシプロ式7.5kW:1台)	電動式圧縮機 (レシプロ式7.5kW:2台)
開閉速度	起立 40分	起立 40分	起立 40分
	倒伏 40~60分	倒伏 120分	倒伏 90分
操作方式	遠方機側及び自動倒伏	遠方機側及び自動倒伏	遠方機側及び自動倒伏

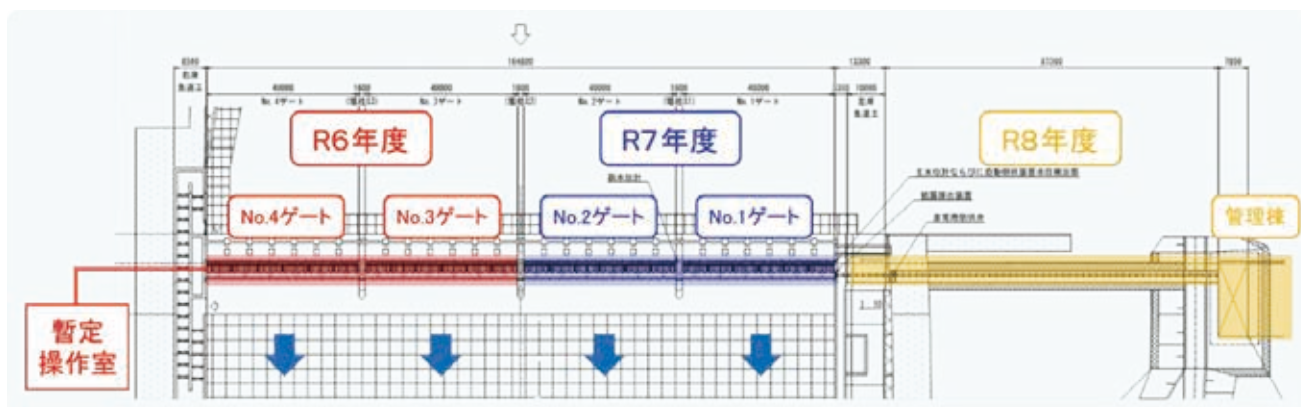


図-2 ゲート設備工事における年度別施工範囲

## 5. 既設設備の一部を活かした改築工事

土木工事では、流水の阻害部分（固定部、魚道、洪水吐、土砂吐）のみを撤去し、既設基礎をそのままSR合成起伏堰の基礎として活用することで、コスト縮減を図っています。（図-3）

なお、既設固定堰の阻害部分撤去は、令和6年の出水期後に半川締切工を行い、施工ヤードを確保した上でワイヤーソーイング工法により施工（切断）しています。（写真-2）

また、下流側には、SR合成起伏堰の空気配管やゲート倒伏時の支持台を据付するスペースを確保するため、コンクリートはつり工を施工しました。



写真-2 固定堰（阻害部分等）撤去状況

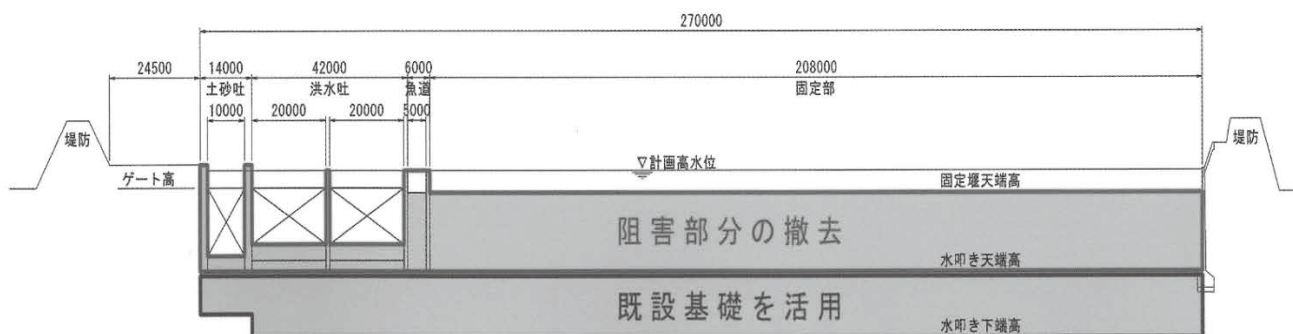


図-3 既設基礎の活用（上流側から見た断面）

## 6. ゲート設備工事

ゲート設備工事は、令和5年8月に契約し、扉体、戸当り、空気袋及び機側操作盤等の設計・製作を行い、令和6年度からの据付に間に合うよう工程を進めました。

ちなみに、空気袋はアメリカ合衆国製で、個々のゲート設備用に設計・製作されるため、空気袋金型も当該設備専用のものになります。そのため、空気袋製作会社では、過去に製作した空気袋金型を全て保管し、保守体制を整えているそうです。

現場では、令和7年1月からNo.3、4号ゲートの空気配管・埋込金物等の据付を開始し、空気配管の漏気確認や据付位置確認終了後、土木工事において二次コンクリートを打設しています。

この間、雪による作業工程への支障が出ないように雪寒仮囲い（全天候開閉式）を設置し据付作業を行っています。

令和7年3月には、空気袋や扉体の据付と並行し

右岸堤防天端に暫定操作室の設置を行いました。

また、この時期から雪解けによる水位上昇で仮締切部からの越水が懸念されたため、簡易水位計を設置し、水位状況に応じた退避行動を定め、安全を確保しながら計画された内容の施工を継続し、4月中旬頃にはゲート設備の据付が完了しました。

これにより、右岸側ゲート2門での取水暫定運用を令和7年4月25日から開始し、かんがい取水に間に合わせることができました。（写真-3～9）

## 7. No.3、4号ゲート設備による取水暫定運用

据付したゲート設備（計画4門のうち2門）の取水暫定運用は、水位計と空気袋圧力のみで取水水位の自動制御を行うこととし、制御プログラムのゲート開閉時間等を変更して暫定運用に対応しました。

取水暫定運用では、ゲート起伏動作が安定しており、取水において全く問題ありませんでした。

また、ゲート設備完成時にはゲート傾斜計（開度

計) が設置されるため、さらにきめ細やかな自動制御が可能になると思われます。

令和7年度は、秋田県県北において8月と9月に

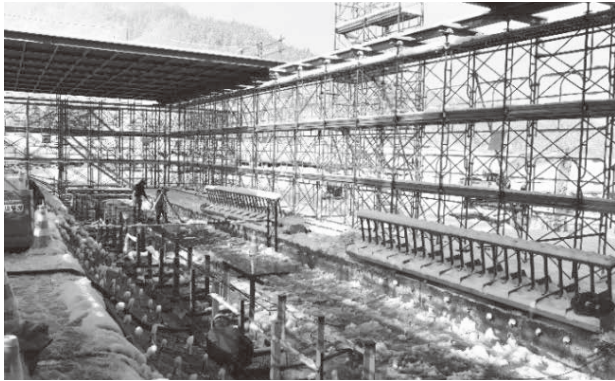


写真-3 雪寒仮囲設置状況 (土木工事施工)

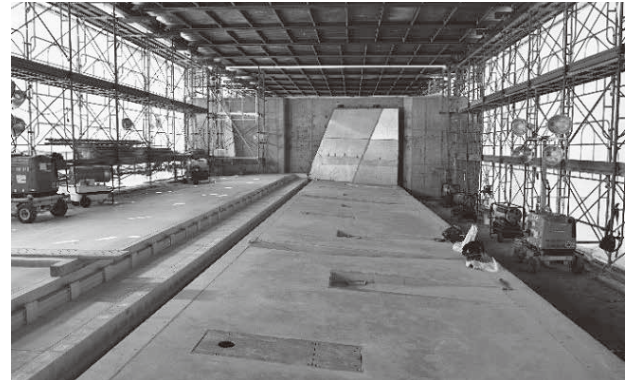


写真-4 二次コンクリート施工完了状況

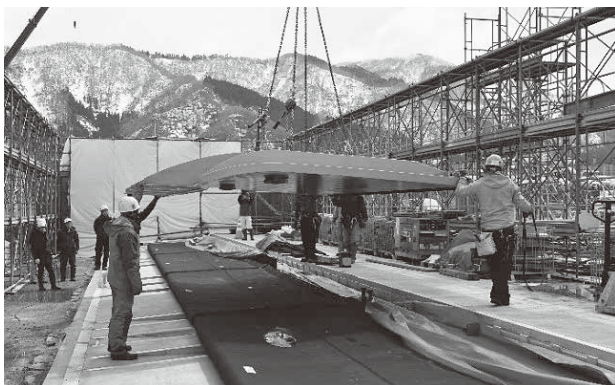


写真-5 扉体据付作業状況



写真-6 扉体固定作業状況



写真-7 空気制御盤確認状況



写真-8 ゲート試運転状況

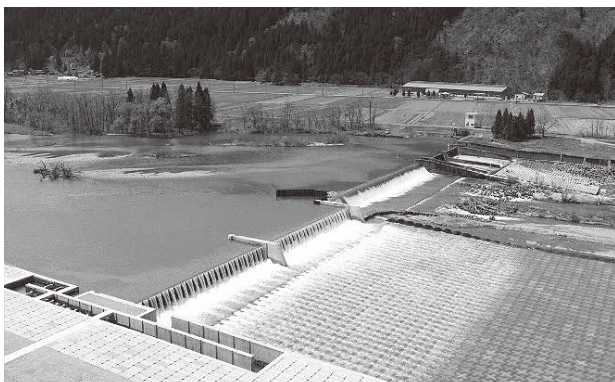


写真-9 No.3、4号ゲート暫定運用状況

記録的な大雨となり、多くの被害が発生しましたが、雄物川上流では7月から9月にかけて渇水となり、出水によるゲート倒伏操作はありませんでした。

## 8. さいごに

令和7年度のゲート設備工事は、令和8年2月よりNo.1、2号ゲートの据付を開始する計画です。

特別豪雪地域である秋田県湯沢市において、冬期の現場作業は、工程・品質・安全管理全般に細心の注意が必要です。

今冬も豪雪にならないよう祈りながら、安全かつ着実な施工を行い、令和8年度の最終年度を迎えゲート設備が完成するよう、日々努めて参りたいと思います。

## 令和7年度 東北地方整備局 優良工事・業務等施工者等表彰

東北地方整備局では、令和7年7月9日建設事業関係功労者40名、優良業務施工者35団体、優良工事施工者57団体、優良工事技術者109名、工事成績優秀地域企業10団体、災害対策功労者個人15名及び団体67団体を国土交通行政関係功労者として表彰すると発表し、表彰式は令和7年7月16日に仙台国際センターにおいて行われました。

東北支部会員で表彰を受けた会社は下表の通りです。おめでとうございます。

令和7年度 優良工事表彰 支部会員一覧表 (順不同)

会社名	所管事務所	工事名	表彰区分
(株)IHIインフラ建設 東北支店	成瀬ダム	成瀬ダム取水設備新設工事	局 長
(株)英明工務店	秋田河川国道	大川反地区電線共同溝工事	局 長
大森建設(株)	秋田港湾	能代港大森地区岸壁(-10m)砕石敷設工事	局 長
(株)柿崎工務所	山形河川国道	及位南地区改良工事	局 長
國井建設(株)	山形河川国道	最上川上流押切地区古佐川左岸下流築堤外工事	局 長
高吉建設(株)	秋田河川国道	上石川地区道路改良舗装工事	局 長
(株)鳥山土木興業	高瀬川河川	高瀬川覆砂工事	局 長
(株)中館建設	岩手河川国道	五日市地区改良舗装工事	局 長
日建工業(株)	仙台河川国道	宮城野地区舗装工事	局 長
升川建設(株)	山形河川国道	最上川上流押切地区法師川サイホン外工事	局 長
大森建設(株)	能代河川国道	能代外堤地区構造物工事	事務所 長
大森建設(株)	能代河川国道	米代川能代地区河道掘削工事	事務所 長
置賜建設(株)	山形河川国道	米沢国道中地区維持修繕工事	事務所 長
(株)小野工業所	福島河川国道	大森地区橋梁下部工工事	事務所 長
(株)小野工業所	郡山国道	郡山管内橋梁補修工事	事務所 長
(株)小野工業所	磐城国道	内郷高架橋外橋梁補修工事	事務所 長
(株)小野良組	南三陸沿岸国道	気仙沼管内維持補修工事	事務所 長
(株)小野良組	仙台河川国道	気仙沼国道維持修繕工事	事務所 長
北日本機械(株)	岩手河川国道	一関遊水地磐井川陸閘ゲート設備新設工事	事務所 長
(株)後藤組	福島河川国道	東北中央道山形地区維持補修工事	事務所 長
(株)佐藤組	北上ダム統管	田瀬ダム維持工事	事務所 長
(株)佐藤工務店	仙台河川国道	河原地区道路改良工事	事務所 長
(株)新庄砕石工業所	新庄河川	最上川中流大石田地区維持工事	事務所 長
スバル興業(株) 東北支店	仙台河川国道	仙台東国道維持補修工事	事務所 長
(株)高嶋組	湯沢河川国道	雄勝地区道路改良工事	事務所 長
日本道路(株) 東北支店	福島河川国道	鳥谷野地区改良舗装工事	事務所 長
富士建設(株)	青森河川国道	岩木川地区河道整備工事	事務所 長
升川建設(株)	福島河川国道	阿武隈川水系松川流域砂防堰堤外工事	事務所 長
山形建設(株)	新庄河川	赤川流域八紘沢砂防堰堤ほか改築工事	事務所 長
山和建設(株)	山形河川国道	小国地区改良工事	事務所 長
菱和建设(株)	岩手河川国道	盛岡西国道西地区維持補修工事	事務所 長

## 令和7年度 東北地方整備局 下請企業事務所長表彰

(順不同)

会社名	所管事務所	工事名	表彰区分
東亜道路工業(株) 宮城支店	仙台河川国道	苦竹地区道路改良舗装工事	事務所長
前田道路(株) 秋田営業所	秋田河川国道	日本海東北道本荘地区維持補修工事	事務所長
前田道路(株) 秋田営業所	秋田河川国道	上石川地区道路改良舗装工事	事務所長
前田道路(株)	郡山国道	北柳原交差点改良舗装工事	事務所長

## 令和7年度 災害対策功労者表彰 支部会員一覧表

(順不同)

会社名	所管事務所	工事名	表彰区分
(株)山崎組	岩手河川国道	令和6年8月10日～12日台風5号大雨	局長
万六建設(株)	秋田河川国道	令和6年7月大雨	局長
(株)柿崎工務所	山形河川国道	令和6年7月大雨	局長
升川建設(株)	山形河川国道	令和6年7月大雨	局長
(株)新庄砕石工業	秋田河川国道	令和6年7月大雨	局長
(株)荏原製作所 東北支社	酒田河川国道	令和6年7月大雨	局長

## 令和7年度 東北地方整備局 工事成績優秀企業を認定

東北地方整備局では、令和5年4月1日～令和7年3月31日に完成した土木工事のうち、特に優れた工事成績を収めた企業について、令和7年度工事成績優秀企業として124社を認定しました。

認定された企業は、新規発注する工事の入札時の総合評価において評価（加点）されるほか、認定ロゴマークを工事現場や名刺等に使用することが出来ます。

東北支部会員で認定された会社は、下表のとおりです。おめでとうございます。

※認定ロゴマーク



## 令和7年度 工事成績優秀企業（東北支部会員）

受注者名	平均評定点	本店所在地市町村名
(株)英明工務店	82	秋田県秋田市
大森建設(株)	81	青森県能代市
上北建設(株)	81	青森県十和田市
ショーボンド建設(株)	81	東京都中央区
高吉建設(株)	81	秋田県大仙市
(株)中館建設	81	岩手県二戸市
日建工業(株)	81	宮城県仙台市
富士建設(株)	81	青森県弘前市
(株)藤本建設	81	青森県青森市
菱和建設(株)	81	岩手県盛岡市
(株)小野良組	80	宮城県気仙沼市
(株)佐藤工務店	80	宮城県加美郡
三立道路(株)	80	福島県会津若松市
(株)高嶋組	80	秋田県湯沢市
東亜道路工業(株)	80	東京都港区
日本道路(株)	80	東京都港区
前田道路(株)	80	東京都品川区
万六建設(株)	80	秋田県仙北郡
山形建設(株)	80	山形県山形市
(株)山崎組	80	岩手県盛岡市

# 安全コーナー

## 重機の死角について

建設部会 副部長 益子 優輝  
(前田建設工業株式会社)

### 1. はじめに

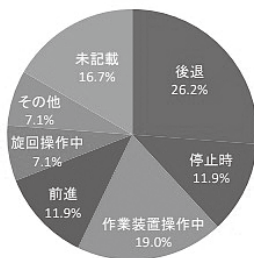
近年、建設現場における重機の死角および接触災害が大きな問題となっています。重機は効率的な施工に欠かせない存在ですが、その特性上、死角による人身事故や物損事故が後を絶ちません。現場の安全を守るためには、死角の特性を理解し、適切な対策を講じることが不可欠です。本報告書では、重機の死角及び接触災害について現場事例を交えながら分析し、今後の安全対策について提言します。

### 2. 重機の死角と災害発生状況

重機の死角とは、運転席から見えない範囲を指します。建設現場で使用される油圧ショベル、クレーン、ホイールローダーなどは構造上、前方・後方・側方に死角が存在します。特に後方は運転席からの視認が困難であり、死角に作業員が入り込むことで接触災害が発生しています。

全国の建設現場における重機接触災害の発生件数は年々増加傾向にあり、令和5年度の統計では、死角による人身事故が全体の約35%を占めています。多くの事故は、作業員が重機の移動範囲に入った際、オペレーターが気付かず接触することが原因です。

動作状況	事故件数(件)	割合(%)
後退	11	26.2%
停止時	5	11.9%
作業装置操作中	8	19.0%
前進	5	11.9%
旋回操作中	3	7.1%
その他	3	7.1%
未記載	7	16.7%
計	42	100.0%



重機の動作状況別事故発生状況(令和4年度)

図1:安全啓発リーフレット(令和6年度版) 参考資料より

### 3. 法令

労働者を守るための重機の法令については以下のようなものがあげられます。

- ・運転中の車両系建設機械に接触する危険のある箇所に労働者を立ち入らせてはいけません。(労働安全衛生規則第158条第1項)
- ・車両系建設機械の作業方法などを示した作業計画をあらかじめ定め、関係労働者に周知してください。(労働安全衛生規則第155条)
- ・重機との接触危険箇所に労働者を立ち入らせて作業をする必要があるときは、誘導者を配置し、その者に重機を誘導させてください。(労働安全衛生規則第158条第1項))

### 4. 死角による災害の要因

#### (1)重機構造上の死角

重機は運転席の高さや車体の形状、付属装置(バケット、ブームなど)によって視界が遮られ、広範囲に死角が生じます。特に大型重機は死角が広く、複数人が同時に作業する現場では危険度が高まります。

#### (2)オペレーターの注意力低下

長時間作業による疲労、慣れによる注意力低下が死角確認の不十分さにつながります。

#### (3)誘導員・合図不徹底

誘導員の不在、合図の不徹底、誘導方法の統一不足が接触災害を招く要因となっています。

#### (4)作業員の不注意

作業員が重機の稼働範囲に無断で立ち入る、オペレーターの視線に入らない位置で作業するなど、不注意行動も事故の原因です。

### 5. 現場での安全対策

#### (1)死角マップの作成

各重機ごとに死角範囲を図示した「死角マップ」

を作成し、現場全員に配布・周知します。これにより、作業員が危険エリアを把握しやすくなります。

### (2)誘導員の配置と役割明確化

重機稼働時は必ず誘導員を配置し、オペレーターと誘導員の役割分担を明確にします。誘導員は高視認性ベストや旗を使用し、オペレーターから確実に認識できるようにします。

### (3)立ち入り禁止エリアの明示

重機の稼働範囲はカラーコーンやバリケードで区画し、立ち入り禁止エリアを明確に表示します。現場入場時の安全教育でも徹底して周知します。

### (4)重機への安全装置導入

バックモニター、死角カメラ、接触警報装置などの安全装置を積極的に導入し、オペレーターの視認性を向上させます。

### (5)コミュニケーションの徹底

作業開始前のKY（危険予知）活動、指差呼称、オペレーターと作業員との合図確認を徹底します。無線機やハンドサインなどを活用し、合図の見落としを防止します。



図2：立ち入り禁止エリアの明示例

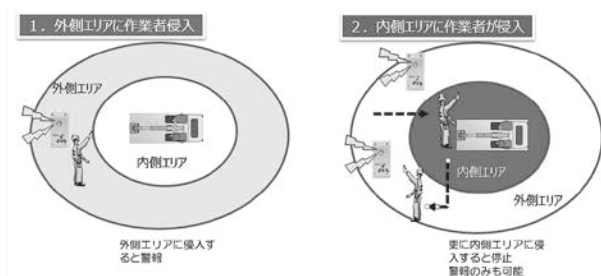


図3：安全装置の例

## 6. ヒヤリ・ハット事例の共有

現場で発生した「ヒヤリ・ハット」事例を毎週共有し、再発防止策を検討しています。例えば、「重機の旋回時に死角から作業員が急に現れた」「誘導員の合図が見えにくく誤操作しそうになった」などの事例が報告されています。これらを安全ミーティングで取り上げ、現場ごとの対策を話し合っています。

## 7. 安全教育と意識啓発

新人教育時は、重機の死角に関する映像教材や実

機体験を通じて危険性を理解させています。また、定期的な安全講習会を開催し、死角災害の事例や対策を周知しています。

「安全はすべてに優先する」という意識を浸透させ、現場全員が自主的に安全行動をとるよう働きかけています。

## 8. 今後の課題と提言

### (1)安全装置の更なる普及

今後は、AIを活用した死角検知システムや自動停止装置の導入が期待されます。現場ごとに装置の有効性を検証し、積極的に導入を進めます。

### (2)現場環境に応じた対策

現場ごとに重機の種類・作業内容が異なるため、個別の死角対策を検討する必要があります。現場パトロールや事例検討会を通じて、実情に即した対策を講じます。

### (3)安全文化の定着

単なるルール遵守だけでなく、現場全員が自発的に安全確保に努める「安全文化」の醸成が重要です。管理者・作業員が一体となって安全活動を推進します。

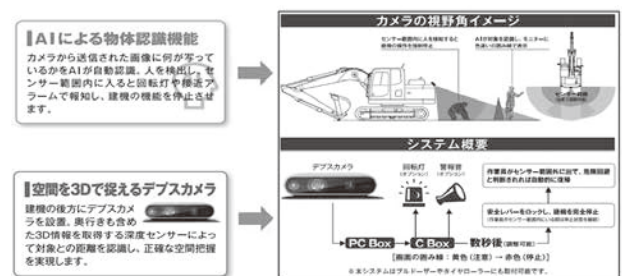


図4：AIによる安全装置の例

## 9. まとめ

重機の死角・接触災害は、構造的な問題と人為的な要因が複合して発生しています。現場では、死角範囲の可視化・誘導員の配置・安全装置の導入・安全教育の徹底など、様々な対策が講じられています。今後は、AI技術の活用や現場ごとの個別対策、安全文化の定着を図り、さらなる災害ゼロを目指す必要があります。

最後に、重機作業に携わるすべての方が「安全はすべてに優先する」という意識を持ち、互いに声を掛け合いながら安全行動を実践することで、災害ゼロの現場を実現できるものと確信しています。今後も現場の声を反映し、より実効性の高い安全対策を推進してまいります。

以上、ご安全に!!

# 支部行事

## 企画部会

### ■令和7年度 第2回 企画部会

月 日：令和7年12月8日(月)

出席者：山尾昭 企画部長 ほか7名

議題：第2回運営委員会について

①令和7年度 上期事業報告について

②令和7年度 上期事業決算状況について

③情報提供

### ■令和7年度 第2回 運営委員会

月 日：令和7年12月15日(月)

場 所：仙台市 サンプラザ

出席者：高橋弘 東北支部長 ほか34名

議題：第2回運営委員会について

①令和7年度 上期事業報告について

②令和7年度 上期事業決算状況について

③情報提供

## 広報部会

### ■E E 東北'25

月 日：令和7年6月4日(水)～5日(木)

場 所：仙台市 夢メッセみやぎ

来場者：18,300人

内 容：出展者：384社、出展技術：952技術、  
新技術プレゼンテーション：54題

### ■橋梁架設・大口径岩盤削孔の施工技術と積算、 及び建設機械等損料講習会

月 日：令和7年6月9日(月)

場 所：仙台市 フォレスト仙台

受講者：22名

内 容：①大口径岩盤削孔の施工技術と積算

②建設機械等損料の積算

③鋼橋架設の施工技術と積算

④P C橋架設の施工技術と積算

### ■E E 東北'25 第3回実行委員会 作業部会

月 日：令和7年8月20日(水)

出席者：佐藤英樹 東北技術事務所副所長  
ほか16名 (Web会議)

内 容：①E E 東北'25 実施報告

②E E 東北'25 決算

③E E 東北'25 アンケート概要

④E E 東北'26について

### ■E E 東北'25 第3回実行委員会

月 日：令和7年8月25日(月)

場 所：仙台市 ハーネル仙台

出席者：中尾吉宏 東北地方整備局 企画部長

ほか28名 (Web会議併用)

内 容：①E E 東北'25 実施報告

②E E 東北'25 決算

③E E 東北'25 アンケート概要

④E E 東北'26について

### ■E E 東北'26 第1回実行委員会 作業部会

月 日：令和7年10月28日(火)

出席者：佐藤英樹 作業部会長 ほか18名

(Web会議)

内 容：①E E 東北'25 決算・監査報告

②E E 東北'26 組織

③E E 東北'26 実施方針

④E E 東北'26 予算

### ■E E 東北'26 第1回実行委員会

月 日：令和7年11月11日(火)

出席者：中尾吉宏 実行委員長 ほか29名

(対面Web併用)

内 容：①E E 東北'25 決算・監査報告

②E E 東北'26 組織 (案)

③E E 東北'26 実施方針 (案)

④E E 東北'26 予算 (案)

⑤E E 東北'26 出展者の募集について

## 技術部会

### ■令和7年度 第17回 建設施工研修会

月 日：令和7年7月7日(月)

場 所：仙台市 フォレスト仙台

参加者：63名

内 容：建設施工技術に関する技術映画 全25  
本を上映

### ■東北道路啓開計画等協議会 第1回委員会

月 日：令和7年8月22日(金)

場 所：東北地方整備局12階災害対策室

(Web併用)

出席者：井上圭介 道路部長 ほか55名

内 容：①東北道路啓開協議会規約について

②道路法改正による道路啓開の新たな  
枠組みについて (概要)

③今後の進め方

■令和7年度 総合防災訓練  
 月 日：令和7年10月3日(金)  
 場 所：支部会議室  
 出席者：福田智之 技術部会部会長 ほか6名  
 内 容：東北地方整備局主催「令和7年度総合防災訓練」の情報伝達訓練に参加

延べ525名

第二次検定 288名

■第1回 東北道路啓開計画協議会  
 ワーキンググループ  
 月 日：令和7年10月6日(月)  
 出席者：松本章 東北地方整備局 道路部道路情報管理官 ほか78名 (Web会議)  
 内 容：①対象となる災害について  
 ②道路啓開の目標について  
 ③優先的に道路啓開を実施する路線・区間について  
 ④今後の進め方について

■令和7年度 機械技術(機械設備)(初級)研修  
 (東北地方整備局)講師派遣  
 月 日：令和7年11月25日(火)  
 場 所：東北技術事務所 研修棟  
 内 容：トンネル換気設備の計画  
 受講者：8名  
 講師：栗原隆行 技術部会員 (株)日立インダストリアルプロダクツ)

■令和7年度 東北地方整備局との  
 設備関係意見交換会  
 月 日：令和7年12月12日(金)  
 場 所：仙台市 フォレスト仙台  
 参加者：38名  
 東北地方整備局 3名  
 (一社)河川ポンプ施設技術協会 15名  
 (一社)日本建設機械施工協会 20名

## 施工部会

■令和7年度  
 1・2級建設機械施工管理技術検定試験  
 月 日：令和7年6月15日(日)  
 場 所：岩手県滝沢市  
 ツガワ未来館アピオ  
 (岩手産業文化センター)  
 受講者：1級 第一次検定 280名  
 第二次検定(筆記) 80名  
 2級 第一次検定 共通 476名  
 第1種 49名、第2種 398名  
 第3種 15名、第4種 53名  
 第5種 6名、第6種 4名

■令和7年度 1・2級建設機械施工管理技術検定  
 第二次検定(実技)試験の試験監督者打合せ  
 月 日：令和7年8月21日(木)  
 場 所：仙台市  
 西尾レントオール(株) 東北テクノヤード  
 出席者：布宮明道 事務局長 ほか21名  
 内 容：新規試験監督者講習、CMI制作DVD視聴、実技試験実施要領、出題・採点基準の説明と打合せ

■令和7年度 1・2級建設機械施工管理技術検定  
 第二次検定(実技)試験  
 月 日：令和7年8月22日(金)~26日(火)  
 場 所：仙台市  
 西尾レントオール(株) 東北テクノヤード  
 受験者：第1種 1級 28名、2級 39名  
 第2種 1級 34名、2級 356名  
 第3種 1級 8名、2級 14名  
 第4種 1級 37名、2級 16名  
 計 1級 107名、2級 425名  
 合計 532名

■ゆきみらい2026in大館 実行委員会設立会及び  
 第1回実行委員会  
 月 日：令和7年6月23日(月)  
 出席者：西村拓 東北地方整備局長 ほか  
 (Web会議)  
 内 容：①実行委員会設立会  
 実行委員会規約(案)について  
 ②第1回実行委員会  
 ゆきみらい2026in大館事業内容(案)  
 について  
 実行委員会会計処理要領・予算(案)  
 について

■令和7年度 除雪講習委員会  
 月 日：令和7年7月4日(金)  
 場 所：東北地方整備局会議室  
 出席者：松本章 東北地方整備局 道路情報管理官ほか10名  
 内 容：令和7年度除雪講習会実施計画について説明し了承を得た

■除雪講習会  
 東北6県11会場にて、合計19日講習会を開催。  
 受講者総数は、3,312名  
 詳細は、本文参照。

## ■令和7年度 建設機械施工技能実習評価試験

### ・7月宮城定期試験

月 日：令和7年7月9日(水)～11日(木)

場 所：CAT宮城教習センター

受験者：学科71名 実技74名（掘削、押土・整地、積込み、締固め）

### ・9月宮城定期試験

月 日：令和7年9月10日(水)～11日(木)

場 所：CAT宮城教習センター

受験者：学科66名 実技78名（掘削、押土・整地、積込み、締固め）

### ・11月宮城定期試験

月 日：令和7年11月12日(水)～14日(金)

場 所：CAT宮城教習センター

受験者：学科86名 実技118名（掘削、押土・整地、積込み、締固め）

## 建設部会

### ■令和7年度 建設部会特殊現場研修会

月 日：令和7年11月26日(水)～27日(木)

場 所：福島県南会津郡下郷町、福島県福島市  
松川町浅川、宮城県名取市愛島

出席者：飯田英厚 部会長 ほか6名

内 容：①会津縦貫南道路（湯野上バイパス）  
一般国道121号湯野上2号トンネル  
工事  
②会津縦貫南道路（湯野上バイパス）  
一般国道121号水門橋上部工工事  
③一般国道13号福島西道路（Ⅱ期）  
浅川トンネル工事  
④名取川水系川内沢 川内沢ダム本体  
工事

## 情報化施工委員会

### ■令和7年度 基礎技術講習会（インフラDX）

（主催：東北土木技術人材育成協議会）

#### ①1回目

月 日：令和7年6月12日(木)

場 所：東北技術事務所 研修棟

受講者：20名

#### ②2回目

月 日：令和7年6月27日(金)

場 所：東北技術事務所 研修棟

受講者：20名

#### ③3回目

月 日：東北技術事務所 研修棟

場 所：令和7年7月10日(木)

受講者：20名

#### ④4回目

月 日：東北技術事務所 研修棟

場 所：令和7年7月17日(木)

受講者：18名

#### ⑤5回目

月 日：令和7年8月7日(木)

場 所：東北技術事務所 研修棟

受講者：20名

#### ⑥6回目

月 日：令和7年9月25日(木)

場 所：東北技術事務所 研修棟

受講者：16名

#### ⑦7回目

月 日：令和7年10月10日(金)

場 所：東北技術事務所 研修棟

受講者：17名

#### ⑧8回目

月 日：令和7年10月17日(金)

場 所：東北技術事務所 研修棟

受講者：15名

#### ⑨9回目

月 日：令和7年11月13日(木)

場 所：東北技術事務所 研修棟

受講者：17名

#### ⑩10回目

月 日：令和7年12月2日(木)

場 所：東北技術事務所 研修棟

受講者：12名

### ■令和7年度 基礎技術講習会（インフラDX）

各県開催（主催：東北土木技術人材育成協議会）

#### ①福島会場

月 日：9月19日(金)

場 所：福島市

キョウワグループ・テルサホール

受講者：19名

#### ②岩手会場

月 日：9月26日(金)

場 所：岩手県宮古市

宮古港フェリーターミナル

受講者：17名

#### ③青森会場

月 日：9月30日(火)

場 所：青森市 新町キューブ

受講者：19名

#### ④山形会場

月 日：10月6日(月)

場 所：山形市 山形県建設会館

受講者：17名

⑤秋田会場

月 日：10月30日(木)  
場 所：秋田県潟上市 秋田県自治研修所  
受 講 者：17名

■令和7年度 ICT・UAV基礎技術講習会  
各県開催（主催：東北土木技術人材育成協議会）

①福島会場

月 日：9月16日(火)～17日(水)  
場 所：福島市  
キョウワグループ・テルサホール  
受 講 者：座学40名、現地40名

②秋田会場

〈座学〉  
月 日：令和7年10月7日(火)  
場 所：秋田市 秋田県庁第二庁舎  
受 講 者：46名  
〈現地〉  
月 日：令和7年10月8日(水)  
場 所：秋田県南秋田郡五城目町 国道285号  
地方道路交付金工事（改築）現場  
受 講 者：14名

③宮城会場

〈座学〉  
月 日：令和7年10月15日(水)  
場 所：仙台市 宮城県庁講堂  
受 講 者：50名  
〈現地〉  
月 日：令和7年10月16日(木)  
場 所：宮城県岩沼市 日本キャタピラー  
D-Tech Center Satellite岩沼  
受 講 者：35名

④青森会場

〈座学〉  
月 日：令和7年10月21日(火)  
場 所：青森市 アピオあおもり  
受 講 者：23名  
〈現地〉  
月 日：令和7年10月22日(水)  
場 所：青森県八戸市  
八戸環状線道路改良事業工事現場（天  
久岱Ⅱ期工区）  
受 講 者：13名

⑤山形会場

〈座学〉  
月 日：令和7年10月23日(木)  
場 所：山形市 山形県建設会館  
受 講 者：41名  
〈現地〉  
月 日：令和7年10月24日(金)

場 所：山形市  
馬見ヶ崎川河川改修工事  
受 講 者：29名

⑥岩手会場

〈座学〉  
月 日：令和7年10月27日(月)  
場 所：岩手県滝沢市  
ツガワ未来館アピオ  
（岩手産業文化センター）  
受 講 者：34名  
〈現地〉  
月 日：令和7年10月28日(火)  
場 所：盛岡市  
（株）岩手測器社 ICT研修センター  
受 講 者：27名

■青森県「工業高校生向け建設ICT体験会」

月 日：座学：令和7年6月6日(金)  
実習：令和7年6月12日(木)  
場 所：青森県立 青森工業高等学校  
受 講 者：都市環境科2年 19名

■青森県県土整備部

「令和7年度 建設ICT施工講習会」  
月 日：令和7年6月10日(火)～12日(木)  
場 所：座学：青森県観光物産館アスパム  
実習：（株）大阪組敷地内  
受 講 者：青森県内建設業者 19名

■令和7年度 建設ICT基礎セミナー

主 催：東北地方整備局、青森県・秋田県・岩  
手県・山形県・宮城県・福島県、東北  
建設業協会連合会、J CMA東北支部

①岩手会場

月 日：令和7年7月2日(水)  
場 所：岩手県滝沢市  
ツガワ未来館アピオ  
（岩手産業文化センター）  
受 講 者：46名

②秋田会場

月 日：令和7年7月3日(木)  
場 所：秋田市 秋田県J Aビル  
受 講 者：17名

③福島会場

月 日：令和7年7月23日(水)  
場 所：福島県会津若松市 会津アピオスペース  
受 講 者：35名

④青森会場

月 日：令和7年7月25日(金)  
場 所：青森市 青森市はまなす会館

受講者：51名

⑤宮城会場

月 日：令和7年7月30日(木)  
場 所：仙台市 フォレスト仙台  
受講者：60名

⑥山形会場

月 日：令和7年7月31日(木)  
場 所：山形市  
山形国際交流プラザ ビッグウイング  
受講者：40名

■秋田工業高等専門学校「3次元測量研修」

受講者：土木・建築系4年生 47名  
〈座学〉  
月 日：令和7年7月11日(金)  
場 所：秋田工業高等専門学校内  
〈実習〉  
月 日：令和7年7月18日(金)  
場 所：秋田県五城目町 恋地スキー場跡

■東北地方整備局インフラDX研修

第Ⅰ期  
月 日：令和7年8月21日(木)  
場 所：東北技術事務所 研修棟  
受講者：10名（整備局、自治体職員）  
第Ⅱ期  
月 日：令和7年9月9日(火)  
場 所：東北技術事務所 研修棟  
受講者：13名（整備局、自治体職員）

■仙台工科専門学校「ICT計測実習」

月 日：令和7年8月18日(月)  
場 所：仙台工科専門学校仙台中央校舎  
月 日：令和7年8月20日(水)  
場 所：宮城県大崎市  
(株)佐藤工務店 三本木機械ヤード  
月 日：令和7年8月27日(月)  
場 所：仙台工科専門学校宮床実習場  
受講者：24名

■ふくしま・けんせつフェア2025

月 日：令和7年8月30日(土)～31日(日)  
場 所：日本大学工学部50周年記念館  
(ハットNE) (福島県郡山市)  
主催者：(一社)福島県建設業協会  
共 催：日本大学工学部、福島県  
後 援：JCMA東北支部外  
来 場 者：全体約4,000人  
(遠隔操縦：83人、VR：147人)

■令和7年度青森県農業農村整備ICT施工研修

月 日：令和7年9月2日(火)  
場 所：青森県五所川原合同庁舎  
受講者：13名

■令和7年度 JCMA ICT施工検定試験・  
説明者更新講習（東北会場）

月 日：令和7年10月14日(火)  
場 所：仙台市 フォレスト仙台  
受講者：検定試験 52名  
更新講習 32名

■第17回東北みらいDX・i-Construction

連絡調整会議

月 日：令和7年11月10日(月)  
場 所：東北地方整備局 12階 大会議室  
出席者：中尾吉宏東北地方整備局企画部長ほか  
59名（対面Web併用）  
議 題：①東北みらいDX・i-Construction連絡  
調整会議規約の変更  
②令和6年度開催概要  
③令和7年度整備局・自治体による担  
当者会議開催概要  
④人材育成・確保  
⑤情報提供

■宮城県石巻工業高等学校

ICTを活用した建設技術 一 出前授業一  
〈座学〉  
月 日：令和7年11月14日(金)  
場 所：石巻工業高等学校内  
〈実習〉  
月 日：令和7年11月18日(火)  
場 所：宮城県大崎市  
(株)佐藤工務店 三本木機械ヤード  
受講者：土木システム科 2年 34名

■令和7年度 青森県県土整備部インフラDX

(ICT)講習会

月 日：令和7年11月18日(火)～19日(水)  
場 所：青森市 青森県観光物産館アスパム  
受講者：29名

■令和7年度 青森県県土整備部

ICT活用工事講習会

月 日：令和7年11月19日(水)  
場 所：青森県庁 会議室  
受講者：23名

■令和7年度 青森県農業農村整備の  
ICT活用工事発注者研修  
月 日：令和7年11月25日(火)  
場 所：青森県土地改良会館  
受講者：28名

## 会員情報

### 新入会員

- 株式会社JAST (2025年8月1日)  
代表取締役 千葉 孝幸  
〒963-4114 福島県田村市大越町  
牧野字南ノ内1-3  
TEL0247-76-1555 FAX0247-76-1557
- 佐藤技建株式会社 (2025年9月1日)  
代表取締役 佐藤 正幸  
〒989-0842 宮城県刈田郡蔵王町  
大字塩沢字天王16-6  
TEL0224-22-7055 FAX0224-22-7056
- 株式会社ソーキ (2025年10月10日)  
代表取締役社長 梶原 英登  
〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町1-15-10  
辰野西本町ビル13階  
TEL0120-856-990 FAX06-6538-3660
- 川屋建設株式会社 (2025年11月1日)  
代表取締役 向井田 岳  
〒028-2101 岩手県宮古市茂市2-110-34  
TEL0193-72-3211 FAX0193-72-2236

### 代表者変更

- 範多機械株式会社 (2025年4月1日)  
執行役員 特販企画部部长兼特販部部长  
諸橋 良二  
(旧 特販部 部長 諸橋 良二)
- 日本製紙石巻テクノ株式会社 (2025年6月17日)  
代表取締役社長 藤本 泰之  
(旧 代表取締役社長 向井 継男)
- 株式会社NICHIGO 東北営業所  
(2025年7月1日)  
東北営業所長 梅田 佳彦  
(旧 東北営業所 所長 東野 孝信)
- 福井コンピュータ株式会社 北日本営業所  
(2025年10月1日)  
北日本営業所長 會澤 達也  
(旧 北日本営業所長 鈴木 陽平)

### 名称変更

- 株式会社アクティオ 東北支社  
(2025年8月8日)  
(旧 株式会社アクティオ 東北支店)
- 株式会社IHIインフラシステム 東北支店  
(2025年11月1日)  
(旧 株式会社IHIインフラ建設 東北支店)

### 支部たより 190号

令和8年1月15日発行  
発行 (一社)日本建設機械施工協会東北支部  
〒980-0014 仙台市青葉区本町3-4-18 太陽生命仙台北町ビル5F  
TEL 022-222-3915 FAX 022-222-3583  
ホームページアドレス <https://www.jcmatohoku.com/>  
メールアドレス [jcma-futukamati@mbr.nifty.com](mailto:jcma-futukamati@mbr.nifty.com)

# 謹賀



# 新年

本年も宜しくお願い申し上げます

令和8年 元旦

(一社)日本建設機械施工協会東北支部

支部長 高橋 弘

副支部長 横井 隆幸

技術部会長 福田 智之

副支部長 早川 直人

施工部会長 斗沢 力

企画部会長 山尾 昭

建設部会長 飯田 英厚

広報部会長 浅野 公隆

情報化施工技術  
委員会 委員長 鈴木 勇治

事務局長 布宮 明道

支部参与 阿曾 貢貴

## 編集後記

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は、1月初めから2月上旬にかけ大雪になったほか、気象庁の報告にもあるように、東北の夏は記録的な猛暑に見舞われた、暑く長い夏でした。その一方で、8月には、秋田県や岩手県において、「緊急安全確保」が発令されるような豪雨も発生し、甚大な水害も発生しました。さらに、12月8日には青森県東方沖で、最大震度6強の地震が発生し、気象庁は運用開始以来初となる「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発令されるなど、自然災害も多く発生しました。

降雨量や降積雪量に関しては立場やその時々気象状況により善し悪しの判断が異なるところですが、今年は、災害の少ない年であることをお祈りしているところです。

話題は変わりますが、昨年は55年ぶりに開催された大阪・関西万博が注目を集めました。スポーツ分野では、世界陸上競技選手権大会（東京2025世界陸上）や第25回夏季デフリンピック競技大会（東京2025）

も開催され、日本選手の活躍が光りました。

今年も、2月の第25回冬季オリンピック、3月のWORLD BASEBALL CLASSIC、6月から7月にかけてのFIFAワールドカップ2026など、スポーツイベントが目白押しです。自分では到底できない超美技や驚異的な身体能力を見ようと、テレビにかじりつく日が増えそうで、今から寝不足の毎日を覚悟しています（笑）。

当誌にもご案内しておりますが、1月末には、除雪機械展示・実演会が大館市で開催されます。最新の技術を間近に体感できる貴重な機会ですので、皆様お誘い合わせの上、ぜひ足をお運びください。

昨年は早い時期からインフルエンザが流行していましたが、新たなコロナウイルスの変異株も引き続き確認されています。感染対策には、どうぞ十分ご留意ください。

皆様のご健康を心よりお祈り申し上げるとともに、今年も引き続きJCMA東北支部の活動に対してご協力を宜しくお願い致します。

末筆ながら、支部たより190号の発行にあたり、原稿を執筆いただきました方々に厚く御礼申し上げます。

(広報部会 土肥 孝俊 事務局)